

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月17日

【評価実施概要】

事業所番号	894200021		
法人名	株式会社ほむけあ いしやま		
事業所名	グループホーム 樂樂		
所在地	八千代町大字菅谷1143-1 (電話) 0296-30-2222		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年12月13日	評価確定日	平成20年6月17日

【情報提供票より】 (平成19年11月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年2月14日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5人, 非常勤 3人, 常勤換算 1.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造、平屋 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年11月13日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1	要介護2	3		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 86.7 歳	最低	80 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂入医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設置法人の理念である「ゆっくり・楽しく・いっしょに・その人らしく」をもとに、利用者ばかりでなく、行政機関や地域の人々にも馴染みのあるホームとなるよう努めている。
職員はホーム内での役割等を担いながら、利用者ごとに担当者が決められ責任感をもって支援にあたっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 初めての受審であり該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者や管理者は外部評価の意義を理解するとともに、自己評価に取り組んでいる。 設置法人内の他のホームの評価結果等を参考に、ケアの取り組みや内容の充実を図っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では日頃のケアの実践状況や行事に関する報告を行うとともに意見交換を行い、サービスの改善に取り組んでいる。 ホームは役場の近くに設置しており、利用者と一緒に役場を訪ね、ホームの運営について周知を図るとともに、サービスに関する意見交換を行っている。
	重点項目③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に金銭出納の報告や行事時の写真を見せている。 利用者等からの苦情や相談に関する窓口や担当者を配置するとともに、適切に対応できるよう体制を構築している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者が全員地域の方々であることから、自治会の加入や夏祭り行事等へ参加し、交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは利用者全員が地域の方々であり、利用者が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられることを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はもとより、利用者や家族等にも理念を共有できるよう玄関や共用の場所、事務所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が全員地域の方々であることから、自治会加入や夏祭り行事等へ参加し、交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は外部評価の意義を理解するとともに、自己評価に取り組んでいる。設置法人内の他のホームの評価結果等を参考に、ケアの取り組みや内容の充実を図っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日頃のケアの実践状況や行事に関する報告を行うとともに意見交換を行なっている。 意見交換の内容をもとに、サービスの改善に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは役場の近くに設置しており、利用者と一緒に役場を訪ね、ホームの運営について周知を図るとともに、サービスに関する意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に金銭出納の報告や行事の写真を見せている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者等からの苦情や相談に関する窓口担当者を配置するとともに、適切に対応できるよう体制を構築している。 また、家族の代表が運営推進会議に参加し、利用者の代弁者として希望や要望を提示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の離職を防ぐために、福利厚生を充実させるなど、職員の異動に伴うダメージを防ぐ配慮をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の経験や役職に応じて、外部や内部の研修を受講できる体制を整備し、実践している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の加入や地域の同業者の勉強会に参加し交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者及び家族と相談したり見学をしてもらい、ホームの雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員や遠方からの通勤者は地元の料理や風習を教えてもらうなど、共に支え合っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の事情を十分に考慮し、希望や要求にそうよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活歴や趣味・嗜好を把握するとともに、利用者らしい生活が送れるよう、主治医や職員会議で検討し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの期間に応じて介護計画を見直すとともに、本人や家族と意見交換を行いながら随時の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を取得するとともに、週1回看護師による健康管理のための巡回を受け入れている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じた医療機関で診察が受けられるよう支援している。 本人と家族で受診する場合は、受診内容の報告を受けるなど適切な医療受診・治療に結びつけている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応について契約時に話し合っている。	○	開設後日が浅く終末への対応の経験はないが、今後に向け本人や家族の安心・安全につながる心構えやケアの実践演習に心がけるよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに配慮した言葉かけや呼び名に注意するなど、利用者の人格を尊重している。 また、個人情報に関する同意書を交わすとともに記録の保管や個室の環境保持に心がけている。	○	ホーム内に掲示している写真等の個人情報について、家族や本人が抵抗を感じないように、今後の検討課題として話し合うことを提案する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の勤務スケジュールや職員の勤務体制に流されるのではなく、その人の生活リズムを尊重した暮らしができるよう支援している。 横になりたい人・散歩する人・テレビを見たい人等、利用者のその日の気分によって職員は見守っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材選びや調理・配膳・後片付け等、利用者のできることを一緒に作業している。 また、利用者と一緒に楽しく会話をしながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回、概ね午後のお茶の時間帯から夕食前の自由な時間に入浴支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が楽しく生活を送れるよう、フラダンスや尺八を演奏するボランティアを受け入れている。 また、畑作業や編み物等、利用者が得意なことを発揮できるよう、場面づくりを行なうことで症状の軽減を図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、散歩や買い物・ドライブや図書館へと孫や家族の同伴で外出を楽しみ、気分転換を図っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、目配りや気配りにより、利用者の安全を確保するなど、鍵をかけないケアを実践している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の消防訓練を実施したり、消火器の設置・点検等により防災に備えている。 地域住民と協力した訓練を計画中である。	○	今後は、地域の方々と一緒に消防訓練等が行なえるよう運営推進会議で働きかけることを提案する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	消化しやすい食材を選び、食欲をそそるよう彩りよく盛りつけている。 食事量や水分量の摂取状況等のほか、体重の増減や排尿状況を把握するなど、健康管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングは床暖房を設置し、三方向に明るく広い窓があり、風通し・採光も良く、のんびりとくつろげる居心地の良い空間づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は共用リビングで過ごすことが多いが、居室はきれいに整理整頓している。 明るいカーテン越しに日の光が入り、夜間も快適に就眠できる環境である。	○	利用者が安心した生活できるような環境づくりについて本人や家族等と話し合うことを提案する。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。